

平成30年1月分（3件）

【障害者に対する対応・配慮の改善要望について】

内容	<p>私は耳が聞こえません。館山市に母が住んでおります。母も聴覚障害者であり、高齢もあって手続きなどはすべて娘である私がすべてやっております。</p> <p>以前にもこの意見メールをお出ししましたが一向に改善されておられませんようでした。そして今、障害者差別法令も出来ておりますし障害者の立場も真剣に考えて少しでも改善したく切にお願いします。</p> <p>市職員は通常教務で手一杯なもの察しておりますが、先日は生活保護係り宛にファックスで問い合わせ致しましてもお返信がありませんでした。ファックスが行き届いていないのかがまず一番の不安でした。館山市役所にはファックスは各課に一台置いていないことは承知しております。聴覚障害者としてはFAXやメールが電話の代わりの手段であります。それを理解して頂けない現状は悲しいとしかありません。</p> <p>館山市の財政は厳しい事も存じておりますが暖かい館山市になって頂きたいと思っております。</p> <p style="text-align: right;">【H30.1.11 受理】</p>
回答	<p>FAXについては市役所代表として1か所総務課に設置しており、着信後担当課へ配布されることとなります。</p> <p>社会福祉課保護係に確認したところ、FAXでご照会をいただいた内容については、個人情報も含むため、回答は郵送にした方がよいと判断し、お手元に回答が届くまで日数がかかってしまいました。</p> <p>FAXをいただいた時点で、受信したことと、その対応についてご一報しておけばご心配おかけすることがなかったと思います。</p> <p>今後は障害のある方ひとりひとりの状況にあわせた配慮を行えるよう、職員に改めて周知していきます。</p> <p>また、担当課に直接メールを送付することも可能ですので、状況にあわせてご利用いただければと思います。</p> <p style="text-align: right;">【H30.1.22 回答】</p>

【きらきらキッズ情報誌の廃刊について】

内容	<p>私たちは「きらきらキッズ編集局」というボランティア組織で、「きらきらキッズ」という館山市の幼稚園から中学生までのすべての子どもたちを対象にした「子ども情報誌」を館山市からの補助をいただきながら作成してきました。</p> <p>この情報誌は、平成11年から3年間の国の事業として国からの補助金をいただいて始まりました。多くの市町村が同じような情報誌を3年間作成しましたが、他の市町村では国の補助が終わると同時にやめてしまったところが多々ありました。</p> <p>そんななかで、館山市だけはこの事業に格別な理解を持っていただき、それから現在まで16年間にわたって館山市の独自事業として毎年予算をつけていただきました。</p> <p>私たちボランティア編集委員も、その期待に応えたいと、少しでも子どもたちのためになるような情報誌を作りたいという気持ちで、精一杯関わらせていただきました。</p> <p>昨今「きらきらキッズ情報誌」の来年度の予算がつかない（廃刊）という知らせがありました。その理由はいろいろとあるとは思いますが、「財政難」というのが大きな理由だと思われます。長年関わってきたこともあり、とても寂しいという思いが湧きあがりましたが、私たちの気持ちは別にして、館山市長金丸謙一様に、きらきらキッズについてあらためて理解していただき、あらためてこの事業についての考察をお願いできればと思います。</p> <p>「財政難」、昨今ではさまざまところでこの言葉が聞こえます。またこの一言で事業とともに人の気持ちまでが「切られる」ような思いもいたしました。館山市の財政窮</p>
-----------	---

	<p>状はここまできているのかと今、あらためて驚いています。</p> <p>館山市がこの事業の目的を理解し、16年間に渡り予算を付け続けてくれたことに感謝すると同時に、今回この事業についてどんな精査と評価がされたのか、また館山市が長年に渡って独自事業として予算化してきた事業目的は達成できたのかどうかを教えてください。</p> <p>きらきらキッズ情報誌は、市内の幼稚園から中学校までのすべての子どもたちとその他の施設等に年に3回、述べ15,000人あまりに届けてきました。</p> <p>その内容は、学校での取り組み、地域での行事、大人との関わり、さまざまな体験、さらには自分で作れる工作の紹介など、学校や地域、年齢の垣根を超えた場所で行われた子どもたちの生き生きとした様子をA4サイズ4ページにまとめたものです。それら記事の取材、撮影などはすべてボランティアである編集員が行なってきました。</p> <p>この情報誌が「時代に対応しない形態だ」や、「認知度が低いことから必要性がないのでは」などというお話もいただきました。反省すべきことは多々あるにしても、行政とともに改善し、子どもたちのために取り組んでいけるのではないかと考えます。</p> <p>近年、館山市をはじめさまざまな自治体が推奨していることに「市民協働」があります。これは「市民が率先して行うことを行政が後押し、官民一体となって事業を行う」ということだと思いますが、きらきらキッズ情報誌作成事業は、まさに「市民協働」の典型的な事業だと思います。そういった観点からも、館山市として必要なものなのかどうかを改めてお考えいただきたくお願いいたします。</p> <p>金丸市長が掲げている「日本一住みやすいまち」「子どもたちの笑顔のために」に向けて、私たちが微力ながらできることを続けられればと願います。</p> <p>最後に、現編集委員全員が「もし可能ならこれからも続けていきたい」という前向きな意思を持っていることをお伝えさせていただきます。</p> <p>お忙しいところたいへん申し訳ございませんが、この件について御一考いただければ幸いです。</p> <p style="text-align: right;">【H30.1.17 受理】</p>
<p>回答</p>	<p>「きらきらキッズたてやま」発行事業についてですが、子供たちを取り巻く環境が大きく変化している中、情報発信プログラムの多様化や子どもや保護者の購読状況など勘案し、当初の事業目的は達成しているとの事業評価の中、本事業の見直しについて、以前から検討してまいったところです。</p> <p>しかしながら予算規模が小さいこと、また市民協働事業としての評価により事業を継続してまいりましたが、財政状況が厳しいなか「選択と集中」という予算編成方針に基づき、平成30年度の予算査定の過程において、本事業については今年度で終了することを判断したものです。</p> <p>皆さんの長年の御貢献に感謝するとともに「市民協働」によるご協力については、今後も重要なものと認識しておりますので、引き続き、その力をぜひ他の分野において、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">【H30.1.25 回答】</p>

【「日本で一番住みやすいまちに」について】

<p>内容</p>	<p>だん暖たてやま2018 1/15号で市長の新年の挨拶が掲載されていましたが、タイトル「日本で一番住みやすいまちに」にて記事内容が一致していないと思いました。「日本で一番住みやすいまちに」の定義（目標）とか、計画と進捗度などを記載せずに、単に実施策を説明しても何も理解できませんでした。</p> <p>質問1：「日本で一番住みやすいまちに」の目指しているまちの姿とか、イメージを具体</p>
-----------	---

的に教えて下さい。

質問2：「日本で一番住みやすいまちに」を目指しているのであれば、どこのランキングなのか、また現在の順位を教えてください。また、何をどのように努力しているのかも教えてください。「日本で一番住みやすいまちに」であれば、東洋経済とか、日経BPとかのメジャーなランキングがありますし、また「住みやすいまち」とは意味合いが異なりますが、「住みたい田舎」であれば宝島社の「田舎暮らしの本」のランキングがあります。それとも、何か特別なランキングとか、評価ポイントがあるのか、目指している姿が見えません。よくテレビでカキ漁師が「おらが所のカキが日本一うまい」などと言っている場面を見ますが、その漁師は全国各地のカキを食べ比べた様子もなく、井の中の蛙・・・が言ったもの勝ちになっている状況によく似ています。

要望1：「日本で一番住みやすいまちに」を目指すなら、どこのランキングなのか、評価ポイントや評価方法を明確にして、いつまで何をするのか、ガイドライン（大日程表）を設定したらどうでしょうか。

昨年9/1号～11/1号で「館山市の財政」が記載されましたが、内容が解りづらく、財政が厳しく、財政破綻の可能性もあるという割には、厳しさの状況が説明されていないと思いました。特に、これからの取り組みは抽象的で解りづらいものでした。

質問3：「日本で一番住みやすいまちに」を目指すことと、財政危機回避とは相反する面もあると思いますが、両立可能なことでしょうか。全力で財政危機回避に対して取り組む必要があると思うのだが？

要望2：財政危機回避のための、いつまで何をするのかガイドライン（大日程表）の設定と進捗状況をWebで公表したらどうでしょうか。

【H30.1.30 受理】

回答

<質問1>

私は、「館山市を日本で一番住みやすいまちに」を政治目標としており、「聞く・見る・動く」を政治信条としています。こうした中、平成28年度からの10年間を展望した“まちづくりの指針”である『第4次館山市総合計画』を策定するにあたり、市の将来都市像として「笑顔あふれる 自然豊かな “あったか ふるさと” 館山」の実現といたしました。

幸せについてはモノサシがなく、幸福度を測ることは難しいですが、市民の皆様一人ひとりが心の中で、「住んでよかった」・「幸せだ」と感じることができ、笑顔にあふれ、誇りをもって自慢できるまちであるならば、自然と「訪れてみたいまち」・「住んでみたいまち」・「帰ってきたいまち」となっていきます。

市民の皆様をはじめ、この地を訪れる方、移住してこられる方、帰ってくる方、全ての方々が、この美しい自然豊かな館山で、ゆったりとあたたかな「人と人とのふれあい」・「人と自然とのふれあい」を重ねることで、まち全体が、いきいきとした笑顔と活気にあふれる元気なまちになることを目指しているところです。

<質問2>

「日本で一番住みやすいまち」のランキングとして特定しているものはありませんが、多くの皆様から「選ばれるまち」として評価いただけるよう努めていきたいと考えています。

なお、ご質問にありました宝島社の「田舎暮らしの本」では、2015年版（2月号）

において“東京から週末に通える田舎部門”で第1位、2016年版（2月号）において“日本「住みたい田舎」の首都圏エリアランキング”で第1位の評価をいただき、最近では、2017年版（2月号）、2018年版（2月号）において同じく“首都圏エリアランキング”で第2位の評価をいただいています。

また、「何をどのように努力しているのか」につきましては、新年の挨拶にも掲載させていただきましたが、“こどもたちを健やかに育てられるまちづくり”、“いくつになっても安心して暮らせるまちづくり”、“市民の暮らしが豊かになるまちづくり”、“災害に強い安全・安心なまちづくり”を大きな施策の柱として位置づけまして、各種取組を推進してまいります。

<要望1>

「日本で一番住みやすいまち」を目指すためのランキングの特定や評価ポイント・評価方法の明確化、ガイドラインの設定につきましては、先ほど述べました、市が掲げる将来都市像の実現に向け、『第4次館山市総合計画』における「前期基本計画」や『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において様々な成果指標・数値目標を設定しています。

計画を「策定して終わり」ではなく、より実効性を高めるため、産官学金労言の各界各層の代表で構成される「館山市総合計画審議会」において、毎年度、進捗状況の確認・効果検証を行い、「PDCAサイクル」による取組の改善と効果的な実施に努めているところですが、頂戴したご意見を参考にさせていただき、今後におきましても、「日本で一番住みやすいまち」と感じていただけるよう、取り組んでまいりたいと考えています。

なお、今回、“市財政の現状”と“今後の予測”について、市民の方々に分かり易く説明するため、広報に連載記事を掲載し、あわせて昨年11月に市政懇談会を開催し、市民皆さまとの意見交換をさせて頂いたところです。

「内容が分かりづらい」、「厳しさの状況について説明不足」とのご指摘は、真摯に受け止め、次回の改善に繋げていきたいと考えています。

また、「今後の取組みが抽象的で分かりづらい」とのご指摘についてですが、行財政改革に関する取組み方策は、これまでも年次計画を定め計画的に実行しています。

現在は、有識者や市民公募委員からなる「館山市行財政改革委員会」において、今度の取組み方策を纏めた『第三次館山市行財政改革方針（H30～34）』の策定作業を行っています。しかし、広報に連載していた昨年秋頃には、具体的な対策等が検討途中であり、お示しすることが出来ませんでした。

現時点では、今後の対策（案）の取り纏め作業が終了し、市のホームページや各地区公民館、図書館などの公共施設において『第三次館山市行財政改革方針（案）』を公表し、市民の皆さまへのパブリックコメントを募集している段階ですので、お時間等がございましたらご確認いただき、ご意見をお寄せいただけると幸いです。

<質問3>

地方自治体の運営は、将来を見据えた安定的な財政基盤のうえで、様々なまちづくり施策が実行可能となるものです。よって、行財政改革を行い社会情勢に合わなくなった施策の見直しや、館山市の特性（温暖な気候や東京・横浜など都心からの近隣性など）を活かした歳入確保施策などにより、新たな財源を捻出し『日本で一番住みやすいまち』を目指していきます。

<要望2>

先の【要望1】でお答えしたとおり、行財政改革に関する取組み方策は、年次計画を定め計画的に実行しています。現在、今後の取組み方策を纏めた『第三次館山市行財政

改革方針（案）』を、市のホームページ等で公表し、市民皆さまからのパブリックコメントを募集しているところです。

なお、計画確定後には、同計画が適切に実行されるよう「館山市行財政改革委員会」の市民公募を新たに行い、進捗状況について監視的役割を担っていただくとともに、その進捗状況についても適宜公表を行っていきます。

【H30.2.9 回答】